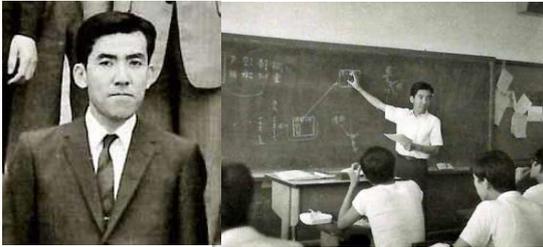


甲状腺外科草子 58

渾身の「芸文往来」：鈴田克介先生

杉野 圭三

年を重ねるとともに、日本や世界の古典文学に興味が高まって来た。中学・高校時代の恩師鈴田克介先生の影響によるものであろう。



鈴田克介先生 (1972) 授業風景 (卒業アルバム 1972)

鈴田先生は古典の中でも平安時代の文学に詳しく、特に源氏物語は熱の入った授業で格別の思い出がある。中世の恋愛事情について「後朝（きぬぎぬ）の別れ」や「後朝の文」などを授業で教えられた。男子校の悪ガキたちもこの時ばかりは居眠りをやめて、真剣に聞いていたものである。「君たちにはまだ早いかな？女学校ではチョット言えませんがね！」などと、解説されていた（今なら小学生でも知っていますよ！）。



文化祭 (1971)



古文試験問題(高1 1970)

先生の略歴（判明分のみ）を記す。

長崎中学卒業、旧制佐賀高等学校を経て京都大学文学部入学。

昭和 28（1953）年卒業後、六甲学院に赴任

1995 年 2 学期終業式で離任。

六甲学院を辞する際に行われた講演は「六甲での四十年」として、六甲学院ホームページに掲載されている。「六甲精神」を誰よりも理解し、この伝統を愛してきた先生であった。

退職されてから、以前より執筆されていた

文章を「芸文往来」として、発行の準備をされたようである。この中で「日本文化の古層」として義経記や古代の神などの広範な考察、「能・狂言」、「黒澤・小津映画」、「森鷗外、北村透谷」などに関する評論が述べられている。如何に自分が浅学菲才であるか痛感させられる高邁な文章である。面白かったのは黒澤映画の中では「隠し砦の三悪人」を高く評価されていた。これには全く同感である。

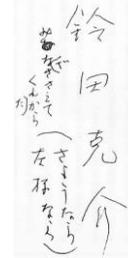


「芸文往来」表紙 同裏表紙 同付録

前立腺癌の療養を続けながら気力で執筆を行い、病床の中で 1998 年 4 月末に校了され、同年 6 月 25 日第一刷発行となった。先生がご逝去されたのは、それから 1 か月も経たない同年 7 月 18 日であった。



1993 年ごろの肖像



最後のメッセージ

1998 年 7 月 8 日頃、病床で衰えそうになる気力の中、震える手で記されたメッセージが残されている。「みんなでさきえてくれたから。さようなら、左様なら。鈴田克介」

参考資料

鈴田克介。芸文往来、六甲出版。1998。

鈴田克介。六甲での 40 年、「芸文往来」付録、六甲校友会ホームページ

気品の人。鈴田先生を偲ぶ会、六甲出版、1998。六甲校友会ホームページ

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2023 年 3 月 1 日

2023 年 9 月 13 日一部改訂